

特集「有能社員獲得方法①」

不景気を乗り越えに

今、行なうべきは有能な人材の確保!

不景気になると、教育業界への就職志望者が増える?
今、塾業界へ就職を希望する人が増えている。
このチャンスを活かし、有能な人材を確保したい。そのために今、塾は何をすべきか?
学習塾の雇用に詳しい株式会社サクシードの大塚史郎氏に伺った。

Attention
不景気が追い風!?
学生の就職志望者が増加

昨年のサブプライムローン問題を発端とする世界的な景気の悪化で、ここ数年続いた学生の売り手市場は一転。2010年の新卒採用からは、厳しい状況になっている。そんな時に……、いやそんな時だからこそ、「教育業界に就職を志望する学生が増えている」と話すのは、学習塾の雇用に詳しい株式会社サクシード・

教育人材支援事業部課長の 大塚史郎氏だ。しかし、それは、これまで金融やメーカーを希望していた学生が、相次ぐ企業の破綻を危惧し、教育業界に流れてきたというもの。教育業界自体は、学生に人気の就職先とは決まっていえない。

では、なぜ人気がないのだろうか? 大塚氏に聞くと、「教育業界、とりわけ塾業界は、将来のイメージが沸きにくいからではないか」と指摘する。三〇代になつたらどうという仕事をし

て、四〇代になつたらどういう仕事ができるか、という将来のステップが見えにくい業界だからだ。「学習塾は三〇歳定年」と一部で言われているように、実際二〇代でがむしゃらに働いて、このままでいいのかわからない、辞めていく人が多い。

また、塾だから「教える仕事」があるのはわかるけれど、それ以外にはどんな仕事があるのか? といった点で、躊躇する学

生も多いようだ。

同社は、学習塾に特化した人材サービス会社なので、転職者の正社員雇用の紹介も行っている。その中には、「塾の仕事は単純に教えるだけで、営業や接待など煩わしい人間関係がないからラクそう」というイメージでやって来る人も多いという。しかし、実際は、教えるだけならバイトでも補えるわけ、正社員はむしろそれ以外の運営業務が中心になるということを案外知らない人が多いのだ。

一方、逆の場合もある。大学生が塾講師のバイトをし、塾の内情に失望してしまふケースだ。詳しくは、次コーナーの「学生講師による覆面座談会」を参考にしていたきたいが、学生は案外シビアに見ている。

しかし、たとえば他業界の景気悪化に伴う就職志望者数増加であっても、塾業界にとつては、今が有能な人材を確保するチャンスである!

Attention
マッチングが難しい
求職者の声、雇用者の声

では、どうやって確保するのか? その前に、塾側と求職者の間に立つ同社だからこそわかる、雇用の現状を教えてください。

現在、サクシードに派遣登録をしている学生、社会人の数は、月間一、〇〇〇〜二、二〇〇人。ところが、塾側の求人は多数あるにもかかわらず、実際の稼働率は二〇%程度という。その理由は、登録者が提示する労働希望条件がピンポイントすぎるから。たとえば、英語しか教えられない、この曜日しかできない、時給一、〇〇〇円以上じゃなければイヤ、自転車通勤できる場所がいいなど、希望をあげればキリがない。そういった条件があればあるほど、採用は難しくなる。逆に週3日で2科目以上教えられる人であれば、仕事は見つけやすい。

一方、塾側が求める人材も幅が広い。たとえば、中学受験を柱とする進学塾では、学歴や自身が中学受験を経験しているかを問われることが多いが、補習がメインの個別指導塾では、講師の学力よりも、勉強が苦手な生徒ときちんと向き合えるかなどが重視される。

また、正社員の求人においては、業務内容が教室の運営や人材管理が中心になるため、大学を出たばかりの若い人よりも、飲食店の店長経験がある人を採用するなど、即戦力を求める塾もあるという。

このような両者の声をマッチングさせるのが、同社の役割であるが、いざ採用が決まったとしても、その後スムーズにいかないケースもある。最近の派遣登録者で、特に二〇代の若い人に多いのが、精神的な不安による相談だ。「今の若い人たちは、怒られる経験をあまりしていないので、ちよつと上から言われてし

まうと、すぐにくじけてしまふんです」と大塚氏。同社では、そんなメンタル的なフォローも請け負っている。

Attention
有能な人材を確保するには
塾側の改善が必要!

学生にとつて、塾講師のバイトは時給がいいので人気がある。しかし、いざ働いてみると、矛盾があり、不満を持つ学生も多い。その最も多い声は、授業以外に強いられる業務が無給である点だ。塾の仕事は、授業以外に、報告書の記入や保護者への連絡など、限りなくある。しかし、学生にしてみれば、「自分は授業をしに来たのに、なんでこんなことまでやらなければならぬのだ?」という気持ちになる。しかも、それらの業務に対しては無給ということに、納得がいかない。その点については、「たとえば、授業時間が時給一、

〇〇〇円であれば、それらの付帯業務は時給一、〇〇〇円であつてもいいと思えます。ところが、それがゼロになつてしまふところに問題があるのです」と大塚氏も指摘している。

ところが、塾側は何十年もそのスタイルでやってきたため、それに対し支払いをするようになったら、塾のシステム自体が成り立たなくなつてしまふと危惧している。「しかし、今ここで改善をしなければ、学生は離れていくばかりです。新しい人材を再び探す採用コストを考えれば、見直すべきではないでしょうか」と、同社も塾側に呼びかけている。

ところで、今、塾業界では、女性の採用を積極的にしている。その背景には、個別指導塾の増加がある。補習塾には物腰が柔らかい女性の方が向いているという考えがあるのだろう。しかし、塾の仕事は夜が遅いため、結婚、出産を考えてい

る女性にとつては、就職は考えにくい。「そのためには、これまでは当たり前で通っていた塾の労働スタイルをきちんと見直すべき」と大塚氏。有能な社員を確保するのは、塾側も労働条件を改善していかなければならないというわけだ。

とにかく今は、塾業界の就職志望者が増え、業界にとつては、いい人材を確保できるまたとないチャンス。少子化になり、今後、塾業界はどうなるかと心配される一方で、少子化だからこそ、いい先生、いい人材がいればお金を出したと、質の高い教育サービスを求める人は確実に増えている。だからこそ、今、塾にとつて最大の課題は、有能な人材の確保し、育成することなのだ。

株式会社サクシード
2004年4月に設立。学習塾に特化した人材紹介・派遣業務を行っている。
事業内容: 学習塾講師派遣、人材紹介、紹介予定派遣
事業所: 本社/東京都新宿区高田馬場 1-30-15
HP: www.benkyo.co.jp/jinzai/